B!E NAGOYA UNIVERSITY OF ARTS ART & DESIGN CENTER NEWS 2012.Vol.35

NAGOYA UNIVERSITY OF ARTS

生きる術(すべ)としてのアート

Open your eyes

2012年度アート&デザインセンター企画展
Open your eyes
―生きる術としてのアート―

2012年11月2日［金］―11月14日［水］
名古屋芸術大学アート&デザインセンター

出品作家：淺井裕介　遠藤一郎　水川千春
企　　画：伊藤悠 (株)island JAPAN代表

11月2日［金］より2日間、出品アーティストの淺井裕介氏によるワークショップが行われ、名古屋芸術大学の学生約100名が参加して「マスキングプラント　群鳥とこもれび」「青春の木」を制作した。

マスキングテープを貼った上に植物や鳥を描いていく。

マスキングプラントの中を淺井氏と学生達が描いた鳥達が飛び交う。

学生が支持体と画材を持ち込んでドローイングした絵をつなげ合わせた「青春の木」。淺井裕介氏が幹を、遠藤一郎氏がメッセージを書き込んだ。

レポート REPORT 01

2012年度あいちトリエンナーレ実行委員会主催企画展
『ALA Project No.14 和田典子』

2012年10月24日［水］―11月25日［日］
アートラボあいち1F／あいちトリエンナーレ情報スペース

名古屋・長者町にある４階建てビルを利用したアートラボあいちは、あいちトリエンナーレ2010の活動成果を2013年に継承するための芸術活動と情報発信の拠点として2011年８月21日に発動。以降この施設では大学連携プロジェクトや学芸ラボ企画展、『ALA Project』や『あいちの現代美術』などの企画が催されています。その一つ『ALA Project』は、この地域で活躍する若手アーティストの作品をあいちトリエンナーレ実行委員会が選出・公開する企画。今回、No.14に名古屋芸術大学美術学部洋画2コース卒業の和田典子が選抜され、約一ヶ月間にわたって新作2点が展示されました。

会期中作家トーク（左）

「a girl in the bed sheet 'one day 3'」
oil on canvas 2012年 1620×1303mm
Courtesy of Yuka Sasahara Gallery

和田は京都市立芸術大学大学院を修了後、東京のYuka Sasahara Gallery取扱い作家の一人として関西や東京、中部の美術界にて活躍を続けています。インスタレーションから次第に平面へと表現が移り、最近の油画作品は幼い頃の記憶などから現れる不安感をもとに、静謐な部屋の中に隠れる架空の少女をカラフルなうねる筆致で大胆に描いた絵画シリーズを発表し、好評を博しています。

何よりも和田の魅力は、アーツチャレンジ2009(愛知)、2010年のVOCA展(東京)や2011年の宮津大輔企画展など、あまたのステージで作品を発表しながら、人間として、また女流アーティストとしての成長の軌跡を作品世界に残しているところでしょう。

大崎正裕　美術学部教授

予告

FUTURE EVENT 01　こどもの空間　絵本と椅子

2012年12月7日［金］― 12月12日［水］
名古屋芸術大学アート&デザインセンター

スペースデザインコースの学生と本年度後期交換留学生が、こどもの動きを観察し、図書館で使うこどものための家具をデザインしました。

こどもの空間をイメージした中に絵本と椅子を展示し、実際に近隣のこども達に来て貰い、作品に座って絵本を楽しんでもらいます。

FUTURE EVENT 02　美術学部コース展

2013年1月18日［金］― 1月23日［水］
名古屋芸術大学アート&デザインセンター

本学美術学部は現在、日本画、洋画1、洋画2、彫塑、立体造形、ガラス、陶芸、アートクリエイター、版画、美術文化の10コースを擁しています。

これら多彩なコースの学習内容を学生たちの日頃の活動を通してご紹介します。

2012 11 - 2013 1 EXHIBITION SCHEDULE

Open 12:15―18:00(最終日は17:00まで)日曜・祝日休館　入場無料　どなたでもご覧いただけます。
スケジュールは変更になる場合がありますので、ご確認ください。

11／ 2 金→11／14 水	2012年度企画展	Open your eyes ― 生きる術としてのアート ―
11／16 金→11／21 水		MCDデパートメント
11／23 金→11／28 水		『幼稚園児たちのゲイジツ』展
11／23 金→11／28 水		『Hand Hospeace;医療と美術』展
11／30 金→12／ 5 水		『AFTER DENMARK;鈴木京+レミセン』展
12／ 7 金→12／12 水		こどもの空間 絵本と椅子
12／ 7 金→12／12 水		2012年度 後期交換留学生作品展
12／14 金→12／19 水		デザイン学部メディアデザインコース学生作品展
12／18 火		メディアライブ
12／21 金→12／26 水		工芸領域 2･3年生展
12／27 木→ 1／10 木		冬期休館
1／11 金→ 1／16 水		日本画3年作品展
1／11 金→ 1／16 水		教員によるコレクション 二人の作家の版画展
1／18 金→ 1／23 水		美術学部コース展

編集後記

10月より学芸スタッフとなりました。卒業以来9年ぶりに足を踏み入れた大学は、懐かしい所と変わっていてびっくりする所が入り交じり、少し不思議な気分です。

今回の特集は秋の企画展「生きる術としてのアート」となりました。人は皆、それぞれ独自の「生きる術」があるのだと思います。それは例えば自然との対話であったり、はたまた社会での処世術であったり。3人の作家が創り出す表現せずにはいられない強いエネルギーが学生たちの創り出す新たな「術」に繋がって行くといいなと思います。

惣城友美(アート＆デザインセンター)

最寄りの交通機関をご利用の場合
名鉄犬山線(地下鉄鶴舞線乗り入れ)徳重・名古屋芸大駅下車西へ約1,000m徒歩15分
※急行一準急電車の場合は西春駅で普通電車に乗り換えるか下車してください
中部国際空港からも名鉄犬山線をご利用ください
西春駅から北西約2,200m徒歩25分、西春駅からはタクシーの便もあります
自動車をご利用の場合
名神一宮インターから10分、名神小牧インターから15分

大学基準協会認定マーク
本学は2011年4月に、大学基準協会の大学基準に適合と認定され、認定評価を再取得しました。
認定期間は、2011年4月から2018年3月までです。
これにより、法令化されている「第三者による認定評価」にも合格したことになります。

名古屋芸術大学 Art & Design Center
〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地　TEL［0568］24-0325　FAX［0568］24-2897

B!E Vol.35
発行日　2012年11月29日
編集　髙橋綾子(美術学部美術文化コース)／惣城友美(アート＆デザインセンター)
発行　名古屋芸術大学アート＆デザインセンター
〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地　E-mail adc@nua.ac.jp　URL http://www.nua.ac.jp

2012　Printed in Japan ©　Art & Design Center, Nagoya University of Arts

デザイン／印刷　サンメッセ株式会社

生きる術としてのアート

Open your eyes

夢はなんですか？

11月3日(土･祝)に開催されたアーティストトークにて
学生からの質問に3人の作家が答えました。

淺井裕介 YUSUKE ASAI

1981年東京都生まれ。
絵描き。テープ、ペン、土、埃、葉っぱなど身の回りの素材を用いてキャンバスに限らず角砂糖の包み紙からアスファルトまで、奔放に絵画を制作する作家。今回のワークショップでの「青春の木」では名古屋芸術大学の土を使って幹が描かれている。ペンとテープで描く代表的なシリーズ「マスキングプラント」や現地の土と水で描く「泥絵」シリーズの多くは会期終了後はがされ、消えてしまう。

『地上絵。
ナスカみたいな。
それは消さない。』

『GPSで日本列島に
ラインを描いているんだけど、
ラインで1周地球をむすびたい。
夢をのせて走ってゆくよ～。』

遠藤一郎 ICHIRO ENDO

1979年静岡県生まれ。
未来芸術家。車体に大きく「未来へ」と描かれた車で各地を走り、出会った人々がそのまわりに夢を書いていく「未来へ号」で車上生活をしながら「GO FOR FUTURE」のメッセージを発信し続ける。
今回の展示にあわせてつくられた『未来へ号5号』は名古屋芸術大学から出発。
天井からは一つ一つの凧に一人一人の夢が描かれた「未来龍大空凧」があげられた。

『日本、日本が気になる。
日本の食材を使って…
日本、味噌、とか…この先やろうかな。』

水川千春 CHIHARU MIZUKAWA

1981年大阪府生まれ。
現在移動生活7年目。各地に滞在して作品を制作しつづける。
今回はあぶりだしのライブパフォーマンスの他、隅田川の下流から上流に向かって採取した水を使ったあぶりだしの作品や温泉の残り湯をゼラチンで固めた作品、石巻で今夏制作したあぶりだしの木に名古屋港で採取した海水を用いてあぶりだしの枝を伸ばした作品等が展示された。

REVIEW

美術学部特別客員教授スペシャル・プロジェクト
『ノリ・モリモト；バーモント木香』展
2012年10月12日［金］－10月17日［水］
名古屋芸術大学アート＆デザインセンター

ルーターで削られた25×25cmの作品

「勉強になります」
　ノリ･モリモトさんの口からたびたび出た言葉です。
　大連に生まれ、多感な十代半ばで敗戦によって家族で香川県に引き上げて来られ、東京でグラフィックデザイナーとして働き、米軍兵士が道端に捨てて行ったラッキーストライクのパッケージ･デザインの美しさに魅せられてNYに渡り、デザイナーとなったモリモトさん。
　渡米後、NY在住で同郷の猪熊弦一郎さんやイサム･ノグチさんという生涯の師に出会い、NYのLong Islandでのレストラン経営で料理人としても功を成し、現在は家族にNYを任せて単身バーモントの森の中のスタジオで木の造形と家具製作に没頭する82歳のアーティストであり職人であるノリさん(学生たちは親しみを込めて、こう呼びました)。
　ノリさんがバーモントから運んで来られたのは、木の香りだけではありませんでした。失敗を恐れず、むしろ失敗から自分のやるべき方向を見出し、未だ旺盛に様々なことに興味を示し、新しい発想と確かな職人技をいとも簡単に駆使し、学生や我々スタッフを、作品と人柄の両面で魅了したノリさんとの1ヶ月は、皆がいつまでも続いてほしいと思う日々でした。
　木工房とアートクリエイターコースのアトリエでの2つのワークショップに参加した学生たちは、ふだん木に馴染みがないことに加え、ノリさんの存在に少々ひるみながら、最初は戸惑っていましたが、そのうちにノリさんの導きに呼応するように、木の造形に夢中になっていきました。
　バーモントの森と、NYの都会を行き来する孤高の作家自身と作品から放たれる香りは、造り手と鑑賞者を問わず、関わったひとりびとりを包み込み、結果ひとりびとりの本来の香りを引き出し、バーモントに去って行きました。
「名古屋にまた来ます」
　その約束が実現することを信じ、皆はまた次を楽しみにしています。

西村正幸　美術学部教授

照明作品

ギャラリーBEでの展示風景

木工房で学生に指導するノリ・モリモト氏

ART WORDS FROM THE ART WORLD

「すみだ焼き器」
（鈴木合金工業）

編集家・デザインプロデューサー
紫牟田伸子
Nobuko SHIMUTA

芸術一話 第11話 人をつなげるものづくり

人の営みというのはおもしろいものだと思う。地域や風土の中で工夫しながら人は生きてきたし、さまざまなものを利用しながら社会をつくりあげてきた。つくられたものが実際に使われている、利用されているということが、つくる側としては最高の幸せで、人が幸せな気持ちになるからこそ、私はプロデュースという立場で、ものと人をつなぐデザインを届けたいと思っている。

数年前に墨田区のプロジェクトで「すみだ焼き器」というものを鈴木合金工業という会社と一緒につくった。墨田区ではもう少なくなった鋳物の会社である。一生懸命、技術を駆使してつくってくれたから、ちょっと高くなった。だからすごく売れたわけではない。でも嬉しいのは、墨田区の食育goodネットという市民の方々の活動のなかで「私たちの“すみだ焼き”をつくろう」というプログラムが始まり、いまでも続いていることだ。墨田区のパン屋さんが協力してくれて、国産小麦を使った美味しいすみだ焼きをつくってくれた。それに興味をもってくれた人たちが試食会をしたいねと言ってくれている。こんなふうに地域でつくったものが地域の食育で利用されているのは初めてのことだと区役所の人も言う。

小さなものづくりが、地域をつないでいき、人と人をつなぐツールになってくれている。もうちょっと売れてくれたら嬉しいけれども、こんなふうに市民に愛されるものになって欲しいと思っていたから、心から嬉しい。